

京都・末窯跡群

すえかまあとぐん

院で、字小倉に寺跡がある)の総門跡と伝えられる場所があるため、試掘調査を行なった。しかし安養院総門跡に関連する遺構は検出できなかつた。

木簡が出土したのは、包含層からであり、遺構に伴うものではない。木簡の年代は近世と推定される。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「米五斗 忠左衛門取口」

- ・「□□ □□ □□」

230×40×10 051

(橋本俊介)

- 1 所在地 京都府天田郡夜久野町字高内
- 2 調査期間 一九八九年(平1)七月~八月
- 3 発掘機関 夜久野町教育委員会
- 4 調査担当者 中川淳美・日下義次
- 5 遺跡の種類 須恵器窯跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代~平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は末窯跡群内にある(旧名高内親谷窯跡)。当窯跡群内では、現在までに五一基の窯跡が確認されており、京都府亀岡市にある篠窯跡群と並んで府内最大級の窯業地帯を形成している。当窯跡群内では、六世紀末から一〇世紀前半頃まで須恵器や瓦を焼いていたことが判明している。

調査は圃場整備に伴うもので、予定地内に安養院(奈良時代の開創と伝える寺



(但馬竹田)

